

しおのや
塩野谷

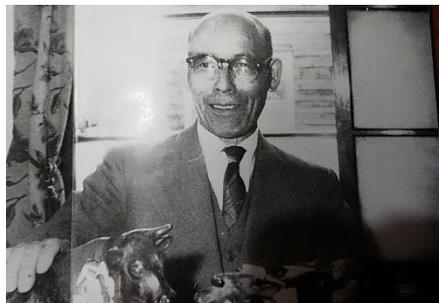
へいぞう
平蔵

酪農家

1885(明治18年)～1970(昭和45年) 84歳没

1. 経歴・狭山市とのかかわり

入間郡下奥富村の塩野谷家の6男に生まれる。2才の時、父親とともに千葉県八街村へ移住。成人していた長兄(辰造)は家族と共に、北海道の旭川に移住した。学問に秀でた平蔵は、ノートをとらなくても記憶力は抜群と、後々語り草になるほど優秀な生徒だった。



2. 主な業績

まだ北海道の酪農が草創期だった明治時代、平蔵はホルスタイン牛の純粋種を北海道に普及させ、品種改良を重ねながら優秀な乳牛をつくり出すことに尽力した。誠実で真っ正直なその性格から、平蔵は「乳牛の使徒」と呼ばれ、多くの酪農家の尊敬を集めた。

①7年間のアメリカ留学

札幌農学校を卒業後、兄辰造の援助により先見の明をもってアメリカに渡り、酪農の技術習得に励んだ。後年、北海道の酪農家に良質のホルスタイン牛1万頭を斡旋し、半世紀以上にわたって普及に努めた平蔵の第一歩は、このアメリカ留学から始まった。

ワシントン州屈指の大牧場で、牛舎の清掃から牛の手入れ、エサの世話、母牛と生まれたばかりの子牛の世話、そして搾乳など、身を粉にして働いた。更にウイスコンシン州農科大学酪農科に学び、卒業論文で「今後の酪農に必要なのは良質な乳がよく出て、繁殖力にも優れた能力の高い純血種の普及にある」と結論づけている。

②ホルスタイン純血種の乳牛の導入・普及

大正2年(1913)、再度アメリカに渡り、ホルスタイン純粋種の牝牛10頭を購入して帰国し、手稲山の山麓に広がるなだらかな傾斜地に土地を購入した。その後も「牛を見ること神業に近い」と言われた平蔵はホルスタイン純粋種の普及に努め、戦時中の満州や朝鮮にも5千頭もの乳牛を斡旋している。



3. 特筆

戦後、平蔵は、全国酪農協会会長、日本ホルスタイン協会会長などの要職に就き、北海道だけでなく日本の酪農を牽引した。雪印乳業株式会社の初代副社長にも就任している。

現在、孫が経営する大牧場レークヒル・ファームが洞爺湖畔の丘の上にある。

←兄の辰造が寄進した上奥富「梅宮神社」の鳥居